

報 告

トークンエコノミー法を用いた歯科保健推進プログラムの実践報告

森野 智子¹⁾ 山本 智美¹⁾ 矢部 高子²⁾ 坂本 友紀³⁾

概要：近年、予防・健康づくりに取り組む者に対してヘルスケアポイントを付与し、健康グッズ等と交換できるようにするなど、インセンティブを提供する取り組みが実施されている。そこで、広く一般市民を対象に歯科健診（受診）でポイントがたまるように楽しみながら参加するトークンエコノミー法を用いた歯科保健推進プログラムを、新たな観点に立った歯科保健推進施策立案の一助を目指すパイロットスタディとして実施した。

本プログラム参加者の状況を知るために、参加者が回答した調査票質問項目の社会参加状況、主観的健康感、健康診断受診状況、歯の本数の認識の有無、歯の主観的健康感、歯磨き回数の結果を整理するとともに、調査票質問項目の参加動機からこの事業がなければ来院しなかった人を1人来院させるにはどれくらい費用がかかったかを調べた。その結果、1人当たり58,837円の費用がかかっていることが示され、今後プログラム内容を改善する必要があることが示唆された。

索引用語：歯科保健、トークンエコノミー法、ヘルスケアポイント、プログラム、パイロットスタディ

口腔衛生会誌 67：23-28, 2017

(受付：平成27年6月1日／受理：平成28年9月26日)

緒 言

これまでにわれわれが行った「牧之原市の65歳高齢者における地域支援事業の歯科相談参加行動に関する因子」(2014年)に関する研究¹⁾において、静岡県牧之原市の65歳高齢者の特徴は「かかりつけ歯科医院があるものの定期的な歯科受診ができていない」「歯科保健行動ができていない人とは、支援環境が少ない(独居)・自分の歯が少ない・男性である」ことが明らかになった。また、同年同市で、静岡県健康福祉部健康増進課と地域の歯科医師会が協力し、65歳歯科相談事業が実施された。無料で歯科相談を受けることができ、さらに歯科衛生用品500円相当がもらえる65歳歯科相談事業の参加者数は、65歳対象者869人中のほぼ1割にあたる87人で、その多くは日頃から定期歯科受診している歯科保健行動の良い人たちであった。このように、市民への歯科受診勧奨は本来受診して欲しい者には効果が少ないことが課題であることがわかっているが、問題に対処

するための取り組みは実行されていない。

そのような中、先進事例として、予防・健康づくりに取り組む者に対してヘルスケアポイントを付与し、健康グッズ等と交換できるようにするなど、インセンティブを提供する取り組みが実施されている^{*1}。厚生労働省保健局では、医療保険制度改革関係事案として、平成27年度中の個人の予防・健康づくりに向けたインセンティブの強化に関するガイドラインの策定を予定している^{*2}。そこで、われわれは歯科保健行動が不良な65歳高齢者に限定せず、広く一般市民を対象に歯科健診(受診)でポイントがたまるように楽しみながら参加するトークンエコノミー法を用いた歯科保健推進プログラム(以下プログラム)を開発した。トークンとは代用貨幣、引換券などの意味をもつ英単語である。トークンエコノミー法とは、障害のある子どもがある望ましい行動をした際に、ご褒美としてトークンを与えられることにより、その望ましい行動をより頻繁に行うようになる心理学的効果があるとされる行動分析学の方法論を用いた行動改善シ

¹⁾ 静岡県立大学短期大学部

²⁾ 静岡県歯科衛生士会

³⁾ 静岡県健康福祉部健康増進課

^{*1} 厚生労働省：個人の予防・健康づくりに向けたインセンティブを提供する取り組み事例，<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyyou-12401000-Hokenkyoku-Soumuka/0000124573.pdf> (2016年8月10日アクセス)。

^{*2} 厚生労働省：個人の予防・健康づくりに向けたインセンティブを提供する取組に係るガイドライン，<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyyou-12401000-Hokenkyoku-Soumuka/0000124571.pdf> (2016年8月10日アクセス)。